

# BROWSING NEW b

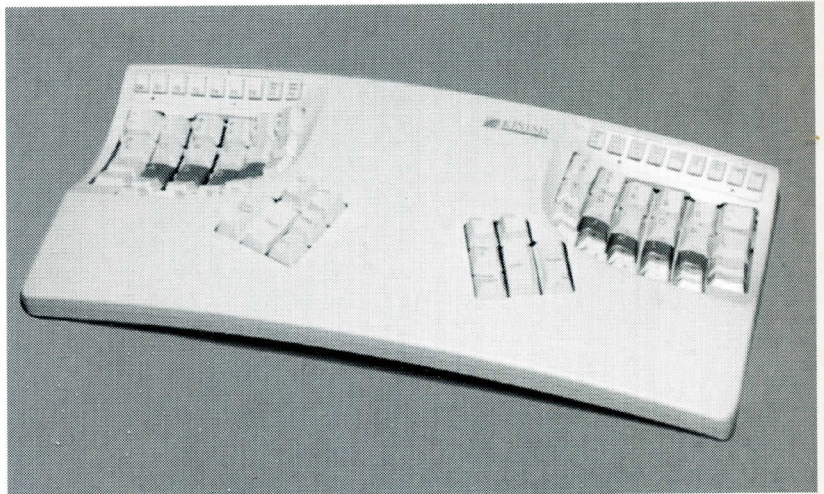


写真1 「ERGONOMIC KEYBOARD」

## 究極の曲線美による特異な外形 豊富なカスタマイズ機能を内蔵

# ERGONOMIC KEYBOARD

AT互換機にどのようなキーボードを使用するかは、好みが分かれるところである。

今回紹介するのは、アメリカのKinesis Corporationという会社が販売する「ERGONOMIC KEYBOARD」という製品である。

「ERGONOMICS」とは「人間工学」を意味する。すなわち、人間工学に基づいてデザインされたキーボードということになる。この製品については、本誌93年9月号の「ゼロ・ハリの電脳遊戯倶楽部」でも取り上げられ、その特異な外形で記憶されている方も多いのではないだろうか。たしかに「これがキーボード？」と疑いたくなるような形をしている。このほど、その実物を入手したので、評価結果をレポートする。

このキーボードの特徴は、なんといってもグラマラスなデザインである(写真1、2)。本体は複雑で曲線的な形状をしているが、プラスチックの成型精度がよく、高級感がある。

本体の色は、美しいペーパーホワイトであり、キーボードというよりは美術品といった感じすら受ける。本体だけの重量は、3ポンド(約1.36kg)で、手に持ってみるととても軽く感じられる。

キーは基本的にQWERTY配列であるが、通

常のキーボードのように対角線状にキーが並んでおらず、上下の列が揃っている(図1)。また、左右のキーが完全に分離されているのが特徴的だ。テンキーは付いていないが、後述するKeypadモードに入ることにより、右側のキーブロックをテンキーとして使用することが可能である。

キーの配置面はくぼみとなっており、見かけ上は使いにくそうに思えるが、指の移動が

少ないので慣れるとかわって楽である。問題は、いったんこれに慣れてしまうと普通のキーボードが使いにくくなってしまおうということだろうか。

また、いかにもアメリカ製らしく、ある程度手が大きな人でないと、若干押しにくいキーが出てきてしまう。

左右の親指には、各キーブロックに両手を置いて[Space][Enter][Ctrl][Alt]

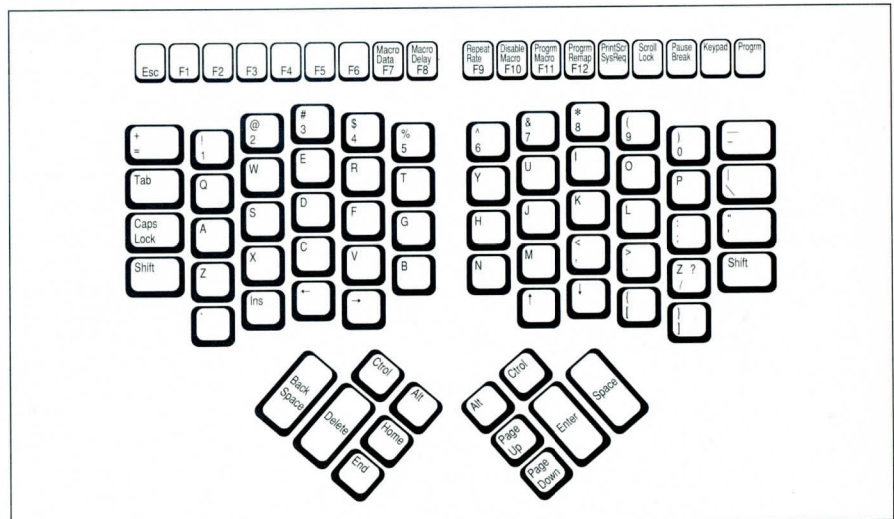


図1 「ERGONOMIC KEYBOARD」のキー配列

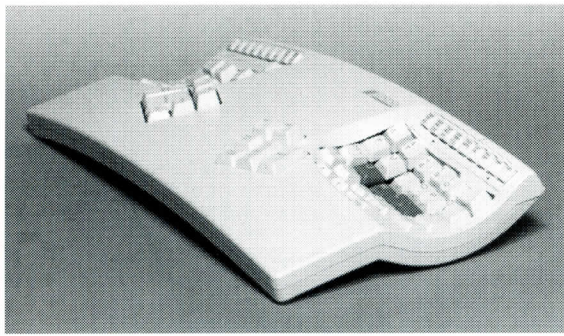


写真2  
究極の曲線美。キーボードとして使わなくなっても、部屋のオブジェとして飾っておける

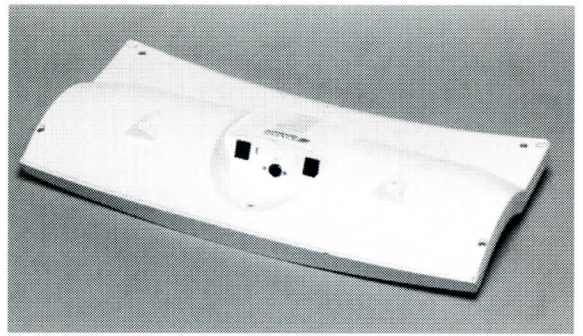


写真3  
キーボードの底にコネクタがある

[PageUp] [PageDown] [Home] [End] [Delete] [BackSpace]の各キーが割り当てられている(デフォルトのキー配置の場合)。

また、カーソルキーは左右のキープロックの下部に配置されており、人差し指と中指で操作が可能だ。

キーボード上には、小さなLEDが3個ある。[Caps Lock LED]は、左側のキープロックの上段に配置されている。また、[Num Lock LED]と[Keypad LED]は、右側のキープロックの上段に配置される。

キーボード底面には、ケーブル接続用のコネクタが配置されている(写真3)。キーボードケーブルを接続するための、D-SubミニDINコネクタを中心に、フットスイッチを付けるためのコネクタが左右に配置されている(写真4)。フットスイッチはオプションとなっている。

このキーボードを使用するためには、タッチタイピングができることが条件となる。キーボードを2本指(もしくは1本指)でカタカタ打っている人にとって、このキーボードを使用することは、苦痛以外の何物でもない。このような方は、心機一転してタッチタイピングを習得するか、もしくは購入を避けるべきだろう。なお、キートップのうち、ホームポジションに当たるものは、ブルーの配色になっている。

## ▼ タッチタイピングの教則本も付いて……

ERGONOMIC KEYBOARDの付属品は豊富である(写真5)。以下に、付属品を示す。

・Getting Started (マニュアル)

キーボードの基本的な使用方法を解説したマニュアル

・User's Manual (マニュアル)

キーカスタマイズの方法などについて解説したマニュアル

・ADAPTATION EXERCISES (教則本)

タッチタイピングの教科書

・キーボードケーブル

ERGONOMIC KEYBOARDをDsub-5PINキーボードコネクタに接続するためのケーブル

・変換ケーブル

ERGONOMIC KEYBOARDを、PS2キーボードポートに接続する際に使用する変換コネクタ

・タッチタイピング練習用ソフト「Typing Tutor」

3.5インチ2HD 1枚

・パームレストパッド

ERGONOMIC KEYBOARDのパームレスト部分に貼り付けるパッド。2枚組。

なかでも目立つのが、2冊の充実したマニュアルである。キーボードのマニュアルとしては、非常に分量が多い。これは、このキーボードがただのキーボードとは異なり、インテリジェントな機能を内蔵しており、各種カスタマイズを行うことが可能であるからだ。

また、タイピング練習用の教材が付いてくるのも特徴的だ。このことは、ERGONOMIC KEYBOARDが「使い慣れたらとても便利だが、慣れるまでが大変」であることを暗示しているようである。

## ▼ 右側のキープロックが“テンキー”に変身

それでは実際に使ってみることにする。

パソコンとの接続は、付属のAT互換機用接続ケーブルを使用する。パソコン側のキーボードコネクタがPS2キーボードポートの場合には、付属してくる変換コネクタも併用して接続する。付属するキーボードケーブルは若干短めなので、机の下などに設置したフルタワーケースのPCに接続する場合には、キーボード延長ケーブルが必要となるかもしれない。

キータッチは可もなく不可もなくといったところであろうか。この辺は好みの問題であ

るのでなんともいえないが、個人的にはもう少しクリック感の強いほうがよいような気がする。

ただ、さすがに高価なキーボードだけあって、安物のキーボードにありがちなキートップのぐらつきがほとんどないのは評価できる。残念な点は、最上段に配置されるファンクションキーが、他のキーと異なり、ラバータッチとなっていることである。また、この部分のキーの大きさも小さい。ファンクションキーも、クリック感のあるキーにしてほしかった。

キーを押すと、内蔵のスピーカから小さなクリック音が聞こえる。また[CapsLock][Insert]キーなどもトグル切り換え時にピープ音が出るようになっている。

実際に文字を入力してみると、かなりアクが強くて、最初のうちは戸惑ってしまう。設計そのものは極めて合理的なのだが、いままでも慣れ親しんだ101キーボードからの乗り換えには少し時間がかかるようだ。実際、添付のマニュアルにも「締め切りに追われている仕事があるときに、このキーボードへの乗り換えを試みないように」との注意書きがある(随分と親切なマニュアルである)。

湾曲したキー配置面は、見かけ上は使いにくそうであるが、指の移動が少ないので慣れるとかえって楽だ。この原稿の入力ぐらいであれば、半日程度の練習をすればできるようになる。また、他のエルゴノミックキーボードと比較してコンパクトであるのがよい(写真6)。机の上でも、それほど場所を取らなくてすむ。

このキーボードにはテンキーが付いていないが、キー最上段に[Keypad]というキーがあり、これを押すことで右側のキープロックをテンキーとして使用することが可能だ。

今回はフットスイッチが届いていないため、これについては未評価であるが、テンキーを利用した数値入力が多いユーザーは、フッ



写真4  
D-SubミニDINコネクタを中心に、フットスイッチを付けるためのコネクタが左右に配置されている

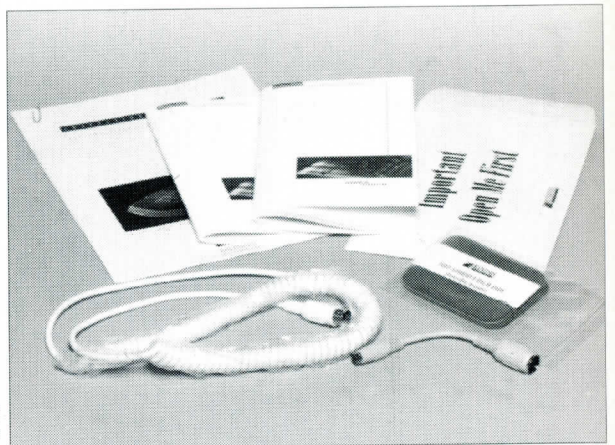


写真5  
マニュアルが異常に充実しているのが目立つ

トスイッチも同時に購入して、これを [Keypad Key] として利用することをお勧めする。この機能を使用すると、フットスイッチを踏んでいる間だけ、右側のキーブロックがテンキーとして利用できるようになる。

ちなみに、右のフットスイッチにはデフォルトで [Keypad Key] が割り付けられており、左のフットスイッチには、デフォルトで [Shift] が割り付けられている。もっとも、キーのリマッピング機能を用いれば、フットスイッチに任意のキーを割り付けることが可能なので、右足に [Shift] キー、左足に [Ctrl] キーを割り当てても、結構便利かもしれない。

全体的に、しっかりとした思想に基づいて真面目にデザインされた製品であるという印象を受ける。このキーボードと Logitech 社の「変な」ポインティングデバイス、「サイバーマンマウス」を組み合わせると、近未来のオフィス端末の気分を味わうことができるかもしれない（もっとも、それなりの格好をしたマシンを使用しなくてはならないが）。

## ▼ キーリマッピングと完全リセット機能

ERGONOMIC KEYBOARDは、任意のキーを再定義する機能が内蔵されている。これを、キーのリマッピング機能と呼んでいる。この機能を使用することによって、キーボードを自分好みのキー配列に設定することができる。

キー配置のリマッピングは、特殊なプログラムなどを利用せず、すべてキーボード側の内蔵ファームウェアで行われるため、UNIXなどのMS-DOS以外のOSでも問題なく利用することが可能だ。設定した内容は、キーボード本体内部にある容量約2KBの不揮発性メモリ

に保存される。

キーのリマッピングの一例として、[Caps Lock] キーに [Esc] キーの機能を割り付ける場合を考えてみる。すなわち、[Caps Lock] キーを押すことによって、[Esc] キー入力が行われるように設定する。

### ①リマッピングモードに入る

キーボード最上段右側にある [Progrm] キーと [Progrm Remap/F12] キーとを同時に押す。すると、キーボードに付いている3個のLEDが点滅を始め、リマッピングモードに入ったことを表示する。

リマッピングモードに入ると、キーボードのキー配置は、すべて工場出荷時の設定に戻る。したがって、たとえばいままでどのようなキー配置にリマップしてあったとしても、それらは無効となり、各キーの機能はキートップに示された機能と一致している。

### ②ソースキーを設定する

ソースキーとは、割り付けを行うキーのうち、割り付け元のキーのことをいう。

ここでは、[Caps Lock] キーに [Esc] キーの機能を割り付けるのであるから、ソースキーは [Esc] キーということになる。したがって、[Esc] キーを1回押す。

### ③デスティネーションキーを設定する

デスティネーションキーとは、割り付け先のキーのことをいう。

この例では [Caps Lock] キーとなるので、[Caps Lock] キーを1回押す。

この操作を行うとLEDの点滅が一瞬長くなり、いままでの設定が正常に行われたことを知らせる。

### ④リマッピングモードを抜ける

キーのリマッピングを続行するのなら、②と③の操作を繰り返すが、リマッピングを終

了する場合には、[Progrm Remap/F12] キーを押して、リマッピングモードから抜ける。すると、いままで点滅していたLEDが点滅を終了する。

以上の操作により、[Caps Lock] キーに [Esc] キーの機能が割り付けられた状態となった。注意点としては、この状態だと [Esc] キーが2つできているということである。すなわち、本来の [Esc] キーと、[Caps Lock] キーが、両方とも [Esc] キーとして動作するようになっている。

もし、[Esc] キーと [Caps Lock] キーとを完全に入れ替えるのであれば、上記操作の②と③の動作で、ソースキーとして [Caps Lock] キーを、デスティネーションキーとして [Esc] キーを指定して、リマッピングを行う必要がある。

さて、以上の操作により、[Esc] キーの機能を持つキーが、[Esc] と [Caps Lock] の2つになった。今度はこの状態で、[Caps Lock] キーの割り付けを元どおりに戻す方法について示す。

### ①リマッピングモードに入る

[Progrm] キーと [Progrm Remap/F12] キーとを同時に押して、リマッピングモードに入る。

### ②ソースキーを設定する

ソースキーとして、[Caps Lock] キーを設定する。

### ③デスティネーションキーを設定する

デスティネーションキーとして、やはり [Caps Lock] キーを設定する。

### ④リマッピングモードを抜ける

[Progrm Remap/F12] キーを押して、リマッピングモードを抜ける。

以上の操作で、[Caps Lock] キーの機能は

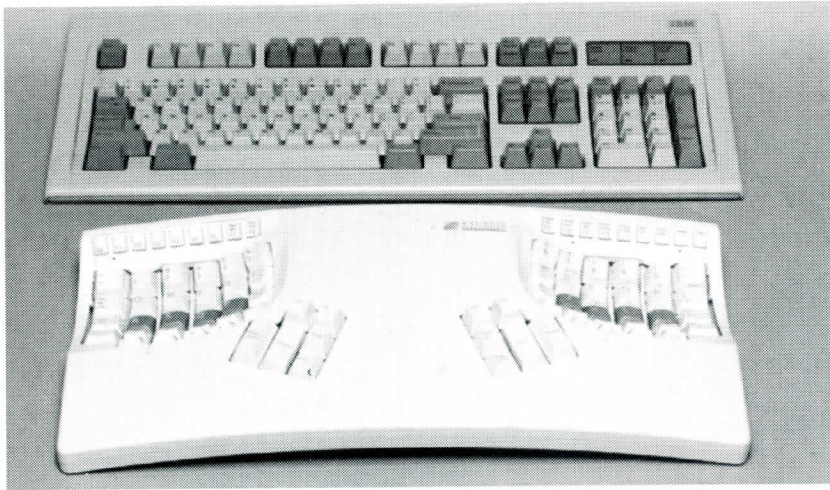


写真6 普通の101キーボードと比べて、大きさはあまり変わらない

元の状態に戻る。

さて、リマッピングを行ったのはいいが、あまりにも凝りすぎてかえって訳がわからなくなってしまう、すべての設定を元に戻したくなったとしよう。この場合、ひとつずつキーを戻していくのはつらい。そのため、キー配置を工場出荷時の状態に戻す、完全リセット機能が内蔵されている。完全リセットの方法は2つある。

#### ・方法その1

(1) [Ctrl] キーと [Program] キーを同時に押す。

(2) [Disable Macro/F10] キーを押す。すると、すべてのLEDが2回点滅した後、キー配置は工場出荷時の状態に戻る。

#### ・方法その2

コンピュータの電源を投入する際、[Disable Macro/F10] キーを押しながら電源を入れる。

オプションのフットスイッチについても、リマッピングが可能である。工場出荷時のデフォルト設定では、フットスイッチは [Shift] キーと [Keypad] キーに割り付けられているが、上記のリマッピング機能により [Ctrl] [Alt] など任意のキーに再設定することが可能である。

このように、リマッピング機能が強力なので、自分の用途に適したキー配列を試行錯誤しながら設定するのもいいだろう。たとえば、[Shift] キーの割り付けをリマッピングすれば、親指シフトも可能となる。

## マクロの設定も ファームウェアで実行

マクロ機能とは、ある特定のキーを押すこ

とによって、あらかじめ設定されている一連の動作を自動的に行う機能のことである。キーボードマクロの設定も、特別なソフトウェアを使用せず、本体のファームウェアで行うため、使用するOSには依存しないで設定可能である。

ここでは一例として、[Ctrl] + [A] キーを同時に押すことによって、dirコマンドを実行するような設定を行ってみることにする。

#### ①マクロプログラミングモードに入る

キーボード上段にある [Program] キーと [Program Macro/F11] キーを同時に押す。

3個のLEDが同時に点滅を開始し、マクロプログラミングモードに入ったことを知らせる。

#### ②トリガキーを設定する

トリガキーとは、ある一連の操作の実行を開始させるためのキーをいう。

ここでは、[Ctrl] + [A] キーとなるので、この2つのキーを同時に押す。

#### ③マクロのシーケンスを順に入力する

トリガキーが押されたときに、実行してもらいたい動作を、順次入力していく。

この例では、dirと押した後、[Enter] キーを押す。

#### ④マクロプログラミングモードを抜ける

以上で設定を終了したので、[Program Macro/F11] キーを押してマクロプログラミングモードを抜ける。

上記の設定で、[Ctrl] + [A] キーを同時に押すだけでdirと打ち込んだことと同じ動作を行う。次に、設定した [Ctrl] + [A] キーのマクロ機能を解除する方法を示す。

#### ①マクロプログラミングモードに入る

[Program] キーと [Program Macro/F11] キーを同時に押して、マクロプログラミング

モードに入る。

②マクロ機能を解除したいキーを入力する  
この場合は、[Ctrl] + [A] キーを入力する。

③マクロプログラミングモードから抜ける  
[Program Macro/F11] キーを押して、マクロプログラミングモードを解除する。

これで、[Ctrl] + [A] キーを押しても、以前設定したマクロ機能は動作しなくなる。

設定したマクロ機能を消去しなくても、一時的にマクロの設定を無効化する方法もある。ソフトウェアによっては、マクロとして設定してあるキーを、コマンドキーとして利用しているものもある。このような場合には、以下の手順で、キーボード側のマクロ機能を一時的に無効化することが可能だ。

—— [Program] キーを押したままの状態、[Disable Macro/F10] キーを押す。

なお、この操作はトグルとなっているので、再度繰り返すとマクロが有効となる。

\*

今回この製品を購入した際には、まだ日本で取り扱っているショップがなかったため、個人輸入によって入手した。

Kinesis社へFAXによる見積り依頼を出す、2日後には回答が返ってきたので、レスポンスは速いほうである。ただ、購入時は在庫がなかったため、約4週間程度待たされた。先方の対応は非常にしっかりしており、信頼できる。

以下に、Kinesis Corporationの所在地を記しておく。

Kinesis Corporation  
915 118th Avenue S.E.  
Bellevue, Washington 98005 U.S.A.  
FAX : 206-455-9233  
TEL : 206-455-9220

さて、気になる価格についてだが、購入時の価格は以下のとおりであった。

キーボード本体 : 390ドル  
フットペダル : 25ドル (1個)  
送料 : 73ドル

購入したはいいが、不幸にしてキー配列に馴染めず、もとの101キーボードに戻ってしまう方も、あるいは出てくるかもしれない。そんな場合でも、彫刻として部屋に置いておくだけでもサマになる製品である。しかしここは、修練を積んでバシバシ利用できるようになると、非常にカッコいい。